

(1) 単元名： 主語を整える

(2) 本時の目標： 二つの文を、適切な言葉をたかってつなぐときの留意点をおさえる。

辺土名小学校国頭地区教育事務所主事招聘授業研究会。
授業者は6年担任のO先生、前年度よりの持ちあがりの学年である。今年度、私にとって辺土名小学校での授業公開は今回が8回目である。教室を開く。「学びの共同体」の理念の実践に大いに敬意を表したい。



右の写真、今回も「学びの共同体」の授業研究会スタイルである。グループに課題が下ろされたら、割り当てられた担当の教師が、各グループに張り付いて子ども達の「学び」の質を対話や仕草から探る。授業研究の視点が教師の「教え方」から、子ども達の「学び」がどうであったかに転換されている。研究協議では、まず、子ども達の「学び」がどうであったかを、各グループに張り付いた教師一人ひとりが観察した事実を語る（授業者の目の届かない子ども達の学びが授業者に提供される）。その次に、「学び」を促進させるための教師の手立てや工夫、アイデアが自分の教室の事実と照らし合われて協議され、すべての教師に共有される。

これまでの校内研修のあり方を根本的に見直す。これまで数年に一度、見せるための「すごい授業」を提案していくのが通例であったが、「学びの共同体」ではちがう。できるだけ日常的に心がけて実践している授業を提案する。「私は日常こんな授業を心がけて実践しています。よろしくお願ひします。」このぐらいの気構えで授業を公開してほしい。学校内でも、教室の状況、子ども達の状況は様々であるが、その「様々な状況」も私たち教師の最高の研究材料となる。

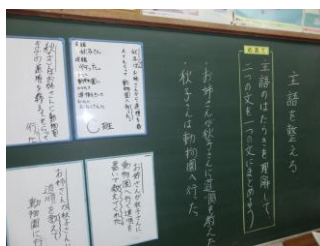
☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【関係を知る】

この教室でぜひ語らせてほしいことがある。それは「教師と子ども達」の関係である。教師が淡々と授業の中で説明する。写真①、教師に向けられる子ども達の眼を見てほしい。実にしっとりである。教室の空気が安心と信頼に満たされている。写真や言葉で伝えきれない雰囲気がこの教室にはある。前年度からの持ちあがりではあるが、単に2ヵ年見てきたからではない。教師と教室の仲間達で、いろんな出来事や課題を乗り越えて「今の私たち」がある。「今も、これからも、みんなで大切にしたい『もの』がある。」この教室をつくりあげている教師と教室の仲間たちの、眼には見えない大切にされている『もの』、それは見えるモノではなく、感じるモノであることだけは確かである。



【前時の復習】：「お姉さん」「秋子さん」の主語と述語の関係について整理する。



前時の復習である。「て」を使って一つの文にする。「お姉さん」「秋子さん」のどちらを主語にするかで文（述語）が変化する。文の決まりや約束を確認しながらグループで文を完成させる。各グループでの「聞き合う・学び合う・支え合う」になんの違和感もない。どのグループを見ても取り残されたり、対話に入れない子がいない。みんながぼくなり、わたしなりに関わっている。

【共有課題】：「ので」を使ってつなぐ場合を考えて後に続く文を書く。



教師：グループで相談しながら1つの文にまとめてください。→このひと声が大切なんです。

どのグループの、誰をみても写真②③の状況である。教室の子ども達はみんなちがう。ちがう者同士が互いに認め合い、互いの考えを「聴き合っている」。決して相手の意見を押し負かせて、自分の考えを認めさせようとする「言い合い」ではない。弱い者、静かな子どもも卑屈にならず参加している。さらに良かったのが、本日のホワイトボードがみんなのシンキングボードとして活用されていたことである。

【共有する】：単なる発表ではない。他者から「学ぶ」のが共有である。



後ろ座席のグループが椅子をもって前中央に集まって、教師主導型で共有が図られた。ここでも教師の話に聴き入る子ども達を見てほしい。

教師が語る。各グループの「似ているところ」ちょっとした「違い」や「まちがい」が子ども達にとって「学び」になる。

【1枚の写真】

各グループのホワイトボードが黒板に提示された後に、仲間から「？」が伝えられた。女の子は、躊躇なく教師の共有の前に訂正した。…さてこの事実の何がいいんでしょう。



【ジャンプ課題】小さなプリントが配布された。子ども達は「考える」「訊き合う」である。

すばり！斉藤智哉先生の言葉を借りて
☆「分からない子の表情がいい」

児童31名の教室である。弱い子や静かな子は通常の学級と同じように居る。しかし「どの子だろう？」静かな女の子はいるがしっかり関わっている。「学び」を投げ出す子が全く見あたらないのである。つまりケアを要する子がいない。みんなが溶け合っている。学びの教室の風景である。「安心」できる教室である。子どもや保護者が求める教室である。



【研究協議より】

《参加者より》

- ・互いに聴けば聴くほど、書けば書くほど迷っていたのが「学び」になっていたのではないか。
- ・グループの女の子から「何で？」が出たが、男の子が一生懸命説明していた。
- ・ジャンプの課題にはすぐに夢中になっていた。・・・時間がほしかった。もっと経過を見たかった。

《指導助言》国頭教育事務所：古波津京子先生より

- ・子どもと教師、子どもと子どもの関係の良さがうかがえた。
- ・グループでの話し合いや共同的活動に慣れている。
- ・「すっきり」「しっくり」を示してあげると理解を深められたのではないか。
- ・資料提供「文と文の意味のつながりを考えよう」

「読む」ことの授業改善のポイント（国研：樺山敏郎）

その他

